

昭和59年版 医師国家試験問題注解

——付・例題——



医師国家試験問題注解

編集委員会編

第14分冊

公共衛生学

昭和59年版 医師国家試験問題注解

—付. 例題—

医師国家試験問題注解

編集委員会編

問題編

第14分冊

公共衛生学



金原出版株式会社

東京・大阪・京都

序

本書の昭和59年版を現役の医学生諸君と、医師国家試験を控えている卒業生諸君にお届けする。本書は今回より問題編と解答・注解編の2分冊とはなったが、合わせてみると何と重いことか、そして何と厚いことか。人は言う、まるで電話帳みたいではないか、と。悪口とも聞こえ、また、本書の意義を高く評価しているようにも響く。

頁を繰るだけで、何となく圧倒されたような気持ちになる。当然かもしれない。しかし諸君がこれまで読んだ臨床医学の参考書のすべてを積んでみたまえ。何と背の高いことか。本書は、それらの内容をまことに手際よくコンパクトにしたものと考えたらよいだろう。つまり、臨床医学のエッセンスを集約したのが本書であるといっても過言ではないのである。

医師国家試験は、臨床上に必要な医学および公衆衛生に関して、医師として具有すべき知識および技能について、これを行う、ことになっている。だから基本的問題のみが出題されてよさそうに思われるが、実際はなかなかそうもいかないようである。いわゆる難問、奇問が少なくなっていることは近年のよい傾向ではあるが、やはり今でもひとひねりした問題がないとはいえない。大学の医学教育をきちんと受けていれば、自然に医師国家試験はパスできるはずであるが、実際はそうでもないところに問題がある。これまでの出題問題をよく検討しておくことはどうしても必要である。また、MCQ方式の問題を解答するには、ちょっとしたコツも必要なようである。こういったことを予じめ会得しておくのと、おかないのとでは天地雲泥の差である。医師国家試験を通過すれば医師になれるのに、不合格であったら、ただの人になることは、諸君が一番よく知っているはずである。だから、医科大学を卒業した以上は、どうしても医師国家試験に合格しなければならない。それがためには、医科大学における講義と実習をまじめに受けた上に、本書のような例題を中心にした実践的訓練をしておくことが重要なのである。

今、医師国家試験は曲り角にきている。厚生省の中に「医師国家試験制度改善委員会」ができて今大いに議論し、検討が行われている。やさしくして合格率を上げるのが目的ではなく、卒前教育を修了した時点で、これから指導医の下で診療に従事してよいか、どうかの資格を認定するための正しい試験になるようにするための作業が行われていると解してよいだろう。

本書には、医師国家試験のためという目的のあることは間違いないが、それとともに、臨床各科の学習のポイントが示されているとみてよい。必ずや諸君のこれからの勉強に役立つといつてよいと思う。ぜひ座右において、臨床各科の補習書として役立てるように希望したい。それも、医師国家試験を目前にして利用するのではなく、休暇を利用してじっくり利用してみるというやり方をおすすめしたい。

本書の厚さと重さに圧倒されずに、slow でもよいから steady に、しかも休暇を利用して本書を利用されることを心から望みたい。

昭和58年5月

医学書刊行会 医師国家試験問題注解編集委員会

編集：岡本・東京

各科領域の問題を読まれる方へ

公衆衛生学

N. 公衆衛生学

選択肢の中から選んで符号で解答を求める形式になった昭和46年以降の既出問題を全部収録した。昭和46年第51回および第52回の問題の選択肢の様式は、現行の出題様式と異なっているので現行の様式に改作した。昭和47年第53回以降の問題のうち、選択肢の符号の配列や組合せが現行様式と同一でないものについても、選択肢を追加削除したり配列を変えたりして現在の様式に一致させた。出題後法規が改正されたり統計などによる実態が変わった内容を含む問題は現状に即応するよう改作した。改作した問題は解答欄に「準既出問題」と標示した。

既出問題および準既出問題を昭和56年10月改定医師国家試験出題基準（ガイドライン）の公衆衛生15大項目に分類した。複数の大項目にわたる問題はもっとも関連していると思われる大項目に入れた。大項目内の問題配列は、既出問題および準既出問題については出題された順とし、その後に例題および昭和56年度および57年度（第71～74回）の問題を追加した。

以上により、大項目別に問題数あるいは問題および解答の部の頁数を比べることによってどの領域からの出題が多かったかがわかり、各大項目内での最近の出題傾向を窺い知ることができる。

臨床各科を履習しおわった頭で衛生学、公衆衛生学を復習し、その各論を学んだ頭で総論を読み返して、国民の健康生活を確保するために医師が医療以外に担うべき責務によってきたる必然性を熟読玩味されたい。

医師国家試験出題基準の大項目の配列など必ずしも系統的であるとはいいがたい。この順序にこだわることなく、在学中使用した教科書・実習書、特にノートを中心に復習し、毎年秋に刊行される厚生指針特集「国民衛生の動向」を一読されるようおすすめする。

(各科目別問題) 総論 I

公衆衛生 II

公衆衛生 III

公衆衛生 IV

公衆衛生 V

公衆衛生 VI

公衆衛生 VII

公衆衛生 VIII

公衆衛生 IX

公衆衛生 X

公衆衛生 XI

(各科目別問題) 公衆衛生 XII

公衆衛生 XIII

公衆衛生 XIV

公衆衛生 XV

疫 学

【問1】大気汚染によるひとりの「公害病患者」も臨床的にはひとりの喘息患者、ひとりの気管支炎患者である。しかし、環境汚染問題に現実直面した場合、公衆衛生学的診断には次のどれを選ぶか。

- a パーセント肺活量(%VC)を測る。
- b 疫学的調査資料を集める。
- c 換気障害が拘束性か、閉塞性か、混合性かを確かめる。
- d 大気環境衛生学的測定を自ら行う。

【問2】次のうち誤っているものはどれか。

- a 同一出生年次群を追求する方法を cohort 分析という。
- b 小集団における慢性疾患の長期観察には person-year (人年)法が必要とされる。
- c 早期新生児死亡とは生後28日未満の死亡をいう。
- d proportional mortality indicator とは全死亡中の50歳以上の死亡の割合(%)をいう。
- e 0歳の平均余命を平均寿命と呼んでいる。

疫 学

【問3】次の表は3つの産業職場における重金属中毒発症患者数の性別分布である。この表から疫学的に発生頻度を判断するとき正しいものはどれか。

産 業 職 場	男 (人)	女 (人)
A	200	100
B	25	5
C	45	15
計	270	120

- a 男子群は女子群のほぼ2倍
- b 男子群は女子群のほぼ3倍
- c 男子群は女子群のほぼ5倍
- d 男子群は女子群の2ないし5倍
- e 上記のいずれでもない

【問4】疫学が応用されるものは次のうちどれか。

- (1) 地域保健の現状の把握
- (2) 疾病の原因の探究
- (3) 個人の疾病に罹患する危険度の推定
- (4) 衛生行政サービスの評価
- a (1), (3), (4)のみ
- b (1), (2)のみ
- c (2), (3)のみ
- d (4)のみ
- e (1)~(4)のすべて

【問5】下表は日英米の気管支炎死亡率である。率の違いについて正しい解釈はどれか。

気管支炎死亡率(人口10万対)			
		年	率
英	国	1961	67.9
日	本	1963	6.0
米	国	1961	2.2

- (1) 死因分類の基準が国によって異なっていた。
- (2) 環境衛生の状態が違っていた。
- (3) 治療法に違いがあった。
- (4) 診断基準が違っていた。
- a (1), (3), (4)のみ
- b (1), (2)のみ
- c (2), (3)のみ
- d (4)のみ
- e (1)~(4)のすべて

【問6】ふるい分け健康診断(screening health examination)について正しいのはどれか。

- (1) 見かけの陽性率(false positive rate)が高いときは2次健診に負担をかける。
- (2) 見かけの陰性率(false negative rate)が高いものはふるい分けに適している。
- (3) 検査に用いられる手技は単に簡易であるのみでなく、正常と異常を敏感に判別するものであることが望ましい。
- (4) 多項目の検査を同時に実施して複数の健康異常を発見すれば効果的である。
- a (1), (3), (4)のみ
- b (1), (2)のみ
- c (2), (3)のみ
- d (4)のみ
- e (1)~(4)のすべて

2 疫 学一問題

【問 7】 次のうち正しいのはどれか。

- (1) ある疾患に関する疫学調査で、家族集積性が見られても、その病因の感染症であるとは限らない。
 - (2) いわゆる case-control study の control 群は、一般に母集団を代表しない。
 - (3) 生命表は出生のコーホート分析によって作成される。
 - (4) 二重盲検法 (double blind test) は観察者および被験者の偏見を避けるために用いられる。
- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 8】 A地区で1年間に発生した肺癌患者100例と、それに matching した対照100例について喫煙歴を調査した結果、喫煙ありは肺癌群80%、対照群20%であった。B地区では住民5万人の喫煙状況を調査し経過を観察したところ、その後1年間に喫煙群から10例、非喫煙群から2例、計12例の肺癌発生があった。

次のうち正しいのはどれか。

- (1) A地区の調査は retrospective study である。
 - (2) A地区の調査では肺癌群の喫煙者率は対照群のそれより4倍高い。
 - (3) B地区の調査は retrospective study である。
 - (4) B地区の調査では喫煙群の肺癌発生率は対照群のそれより5倍高い。
- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 9】 次のうち正しいのはどれか。

- (1) 糖尿病の早期発見には集団検診が効果的である。
 - (2) 小・中学校では全児童・生徒に対して、毎年ツベルクリン反応、BCG接種、エックス線間接撮影による結核管理が行われている。
 - (3) 高校生の近視 (裸眼視力1.0未満) の頻度は40%を越える。
 - (4) 急性心臓死の頻度は管理職が他の職種より高い。
- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 10】 ある地域の cohort study で以下の結果を得た。

	死 亡 率 (10万対)	
	肺 癌	CHD (冠動脈性心疾患)
非 喫 煙 群	10	100
喫煙群 (i) 20歳未満で喫煙開始	60	150
(f) 20歳以上で喫煙開始	40	130

次のうち正しいのはどれか。

- (1) 喫煙に関する relative risk はどの群 [(i)と(f)] も肺癌の方がCHDより大きい。
 - (2) 喫煙者全体 [(i)と(f)] の relative risk は肺癌では $\frac{(40+60)+2}{10} = 5.0$ 、CHDでは同様に計算して1.4となる。
 - (3) 喫煙に関する attributable risk (寄与危険度) は、肺癌とCHDでは等しい。
 - (4) 喫煙開始年齢は両疾患の死亡率に影響を与えている。
- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 11】 ある因子(A)が疾病(B)の発生と関連があるか否かを調査したいとき、

- (i) 因子(A)を持つ群と持たない群とを追跡してそれぞれの群にどれだけ疾病(B)が発生するかを調査する方法 (cohort study, prospective study) と、
- (ii) 疾病(B)の患者群と対照群とについて、因子(A)をあらかじめ持っていた者がどれだけいたかを調査する方法 (case control study, retrospective study) がある。

前者の方法が後者の方法より有利な点はどれか。

- (1) 因子(A)の疾病(B)の発生に対する危険度を直接測定することができる。
- (2) 因子(A)についての情報がより正確に得られる。

(3) 疾病(B)の診断がより確実である。

(4) 時間と経費がかからない。

a (1), (3), (4)のみ

b (1), (2)のみ

c (2), (3)のみ

d (4)のみ

e (1)~(4)のすべて

【問 12】 人類生態学において健康に関与する 3 大要因は次の組合わせのうちどれか。

a 患者—潜在性患者—健康者

b 患者—家族—社会

c 宿主—環境—病因

d 感受性—感染経路—感染源

e 理化学的要因—生物学的要因—社会経済的要因

【問 13】 ある病院に入院中の肺癌患者 N 人と、それに matching した対照 N 人について喫煙歴を調査して、表に示す結果を得た。肺癌発生に対する喫煙の相対（比較）危険度（relative risk）について正しいのはどれか。

	肺癌患者	対 照 者	計
喫煙歴			
有	n_1	n_2	$n_1 + n_2$
無	n_3	n_4	$n_3 + n_4$
計	N	N	2N

ただし、 n_1, n_2, n_3, n_4 はいずれも人数

a $\frac{n_1}{n_1 + n_2} \div \frac{n_3}{n_3 + n_4}$ として求められる。

b $\frac{n_1}{n_1 + n_2} - \frac{n_3}{n_3 + n_4}$ として求められる。

c 近似的に $\frac{\frac{n_1}{N}}{\frac{n_3}{N}} = \frac{n_1}{n_3}$ として求められる。

d 近似的に $\frac{n_1 n_4}{n_2 n_3}$ として求められる。

e 上記のいずれでもない。

【問 14】 食中毒の原因食と疑われる食品について摂食者と非摂食者の発病状況を調べ表に示す成績を得た。この食品についてもっとも妥当な判断はどれか。

	発 病	発病率	非発病	計
摂 食	15	30%	35	50
非 摂 食	5	10%	45	50
計	20	20%	80	100

$$\text{カイ 2 乗} = \frac{(15 \times 45 - 5 \times 35 - 100/2)^2 \times 100}{20 \times 80 \times 50 \times 50} = 5.0625 > 3.841$$

a 摂食者の 30% が発病しているので原因食と推定する。

b 摂食者の発病率は非摂食者の発病率の 3 倍であるので原因食と推定する。

c カイ 2 乗の値が自由度 1 の 5% 点の値 3.841 よりも大きいので原因食と推定する。

d 摂食者の発病率が非摂食者の発病率より多く、かつ、カイ 2 乗の値が自由度 1 の 5% 点の値 3.841 よりも大きいので原因食と推定する。

e 非摂食者からも 10% 発病しているので原因食ではないと推定する。

【問 15】 prospective study (cohort study) が retrospective study (case-control study) より優れている点はどれか。

(1) 観察期間が短く、労力と経費がかからない。

(2) 発生のまれな疾病の relative risk を求めやすい。

(3) 容疑因子の曝露については信頼性の高い資料が得られる。

4 疫 学一問題

- (4) 対照群の選び方に偏り (bias) が少ない。
(5) 疾病に対する容疑因子の relative risk が直接測定できる。

a (1), (2), (3)

b (1), (2), (5)

c (1), (4), (5)

d (2), (3), (4)

e (3), (4), (5)

【問 16】 夏、ホテルで集会が開催されたとき、このホテルの宿泊者に急性肺炎様疾患が集団発生した。

この場合、公衆衛生学的にまずなすべきことはどれか。

a 患者の隔離

b 患者排泄物からの病原体検索

c 各種疫学的調査資料の収集

d 屋内空気の消毒

e 行政官庁への届出

【問 17】 ある地域の追跡調査で次の結果を得た。

死 因	期 待 值	喫 煙 者 値
肺 癌	200	2000
冠動脈疾患	5000	10000

誤っているのはどれか。

- (1) 喫煙に関する相対危険度 (relative risk) は、冠動脈疾患より肺癌のほうが大きい。
- (2) 喫煙に関する寄与危険度 (attributable risk) は、冠動脈疾患より肺癌のほうが大きい。
- (3) 喫煙の疾病に対する影響は、肺癌より冠動脈疾患のほうに強く現れている。
- (4) 地域住民に対する疾病防止対策上、冠動脈疾患をまず重視する。

a (1), (3), (4)のみ

b (1), (2)のみ

c (2), (3)のみ

d (4)のみ

e (1)~(4)のすべて

感 染 症

【問 1】 予防接種法によって義務づけられている定期予防接種はどれか。

- (1) 痘 瘡 (2) BCG (3) 麻疹 (4) 風しん (5) 破傷風
a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

【問 2】 予防接種に主として弱毒性生ワクチンが用いられるのはどれか。

- (1) 百日せき (2) 急性灰白髄炎 (3) 麻疹
(4) インフルエンザ (5) 日本脳炎
a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

【問 3】 次の疾患の予防接種に使われるワクチンのうち、弱毒性生ウイルス、死ウイルスを用いないものはどれか。

- a 急性灰白髄炎 b 破傷風 c 痘 瘡
d 結 核 e インフルエンザ

【問 4】 昭和56年の1年間に新たに保健所に登録された結核患者数は65,867人であったが、そのうち感染源として公衆衛生上問題になる感染性結核患者はどれくらいであるか。

- a 5千人未満 b 5千～1万人 c 2万～3万人
d 4万～5万人 e 6万人以上

感 染 症

【問 5】 現在、保健所に登録されている結核患者の数はどのくらいか。

- a 約25万人 b 約30万人 c 約35万人 d 約45万人 e 約55万人

【問 6】 BCG ワクチンについて、正しいものはどれか。

- a BCG ワクチンの接種は、原則としてツベルクリン反応を判定した日に行う。
b BCG ワクチンは液体の状態でアンプルに封入されている。
c BCG ワクチンの接種は、皮内注射によって行う。
d BCG ワクチンの接種部位は、日光に当てて乾かす。
e BCG ワクチンの免疫効果は、1年以内に消失する。

【問 7】 細菌性赤痢の菌群で近年もっとも多いのはどれか。

- a *Shigella flexneri* b *Shigella dysenteriae* c *Shigella boydii*
d *Shigella sonnei* e 菌群不明

【問 8】 D群 (*Shigella sonnei*) による赤痢はほかの菌群による赤痢に比べて症状はどうか。

- a 軽 い b 中等度 c 重 い
d 重く長期にわたる e 重いが長びかない

【問 9】 臨床的に軽症が多いD群 (*Shigella sonnei*) の占める割合が大きくなると赤痢の予防対策は次のどれに該当するか。

- a 感染源対策は容易である。 b 感染源対策はきわめて困難である。
c 個体の感受性対策は予防の中心とならざるを得ない。 d 感染経路対策は容易である。
e 個体の感受性対策は容易である。

【問 10】 近年の赤痢の罹患率について正しいのはどれか。

- a 最近減少している。 b 急速に増加している。
c 徐々に増加している。 d 依然として高いままである。
e 夏にきわめて高く冬に低い。

【問 11】 誤っているものはどれか。

- a 日本脳炎の予防接種の第1目的は、集団免疫を高く保つことである。
b アメーバ赤痢も細菌性赤痢と同様に、伝染病予防法の適用を受ける。
c 急性灰白髄炎は主として経口的に感染する。
d 健康保菌者は患者に比し排菌量は少ないが、伝染病流行にはたす役割はきわめて大きい。
e 逆性石鹼液は糞便の消毒には用いない。

【問 12】 わが国で行われている次の予防接種のうち、定期に行うことになっているものはどれか。

- (1) ワイル病 (2) 麻 疹 (3) 急性灰白髄炎
(4) 日本脳炎 (5) インフルエンザ
a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

2 感染症一問題

【問 13】 予防接種が定期に行うことになっていないのはどれか。

- a 結核 b 百日咳 c ジフテリア d 破傷風 e 風疹

【問 14】 予防接種として、イ、ロとも正しいのはどれか。

(1) 痘瘡（種痘）

イ. 種痘後脳炎は再接種の場合に多い。

ロ. 不善感と判定された場合にはその後直ちに更に1回種痘を行う。

(2) ジフテリア

イ. Schick テスト陰性者のみに行う。

ロ. 年長者ほど副作用が強い。

(3) 百日咳

イ. 死菌ワクチンが使用されている。

ロ. 初回、追加とも2回式で行う。

(4) 急性灰白髄炎

イ. 生ワクチンの内服による。

ロ. 生後3～48か月の間に2回内服させる。

a (1), (3), (4)のみ

b (1), (2)のみ

c (2), (3)のみ

d (4)のみ

e (1)～(4)のすべて

【問 15】 集団発生について誤っているものは次のうちどれか。

a 単一曝露の発生曲線は一峰型である。

b 単一曝露の発生では重症者はその後半に多い。

c 発生曲線が波状のものは接触感染のことが多い。

d 集団免疫がある場合は不顕性感染者が多くなる。

e 発症者は症状を総合すれば臨床的診断は容易になる。

【問 16】 急性灰白髄炎について正しいものは次のうちどれか。

a 感染すれば大部分のものは四肢の麻痺をきたすので診断は容易である。

b 診断した医師は24時間以内に、もよりの保健所長に届け出なければならない。

c 飛沫感染が大部分であるが、まれに飲食物感染をすることもある。

d 生後3～48か月の間に2回生ワクチンを内服するように定められている。

e 生ワクチンの副作用により重い障害を残したり死亡する者も少なくない。

【問 17】 種痘について正しいものは次のうちどれか。

(1) 2週間前 BCG 接種を受けているので今から3週間後に受けるように指示した。

(2) 多圧法により右上腕外側に1個接種した。

(3) 接種後7日目に検診をし、善感または不善感の判定をした。

(4) 不善感であったのでもう一度接種した。

a (1), (3), (4)のみ

b (1), (2)のみ

c (2), (3)のみ

d (4)のみ

e (1)～(4)のすべて

【問 18】 抗結核薬を発病予防の目的で投与する場合、正しいものは次のうちどれか。

(1) 使用される抗結核薬は主として INH である。

(2) ツベルクリン反応疑陽性者には、すべて投与すべきである。

(3) 対象者は新鮮な自然陽転者が望ましい。

(4) 回復者は再発防止にも用いられる。

a (1), (3), (4)のみ

b (1), (2)のみ

c (2), (3)のみ

d (4)のみ

e (1)～(4)のすべて

【問 19】 疾病の時点流行 (point epidemics) の伝播形式は次のうちどれか。

a 伝播動物による

b 人から人へ

c 飛沫伝播

d 伝播体による

e 間接接触

【問 20】 わが国における次の感染症のうち感染源対策がもっとも効果的であるものはどれか。

(1) 急性灰白髄炎

(2) 日本脳炎

(3) 腸チフス

(4) コレラ

(5) 猩紅熱

a (1), (2)

b (1), (5)

c (2), (3)

d (3), (4)

e (4), (5)

【問 21】 わが国における次の感染症のうち予防接種がもっとも効果的であるものはどれか。

(1) 急性灰白髄炎

(2) 日本脳炎

(3) 腸チフス

(4) コレラ

(5) 猩紅熱

a (1), (2)

b (1), (5)

c (2), (3)

d (3), (4)

e (4), (5)

【問 22】 次のうち正しいものはどれか。

- (1) 伝染性肝炎の流行には不顕性感染が多い。
 - (2) 赤痢の水系爆発流行では家族集積性を認めることがきわめて多い。
 - (3) 緑膿菌は近年病院内感染の原因菌として重視されている。
 - (4) 日本脳炎の罹患率は高年齢層より若年齢層のほうが低くなってきた。
- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 23】 一般に不顕性流行の型をとり感染者のごく一部の者が発病する伝染病はどれか。

- (1) 日本脳炎 (2) 急性灰白髄炎 (3) ましん
 - (4) 百日せき (5) インフルエンザ
- a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

【問 24】 伝染病の水系流行に該当しない事項はどれか。

- a 患者の発生は爆発的で流行曲線は一峰性。
- b 汚染された水系地域に多発。
- c 性・年齢・職業などとは無関係に発生。
- d 潜伏期は延長し致命率は低い。
- e 発生は季節に大いに関係がある。

【問 25】 患者の糞便中に病原体が排泄される疾病はどれか。

- (1) 赤痢 (2) 腸チフス (3) 急性灰白髄炎 (4) ジフテリア (5) 風疹
- a (1), (2), (3) b (1), (2), (5) c (1), (4), (5)
d (2), (3), (4) e (3), (4), (5)

【問 26】 患者の尿中に病原体が排泄される疾病はどれか。

- a 赤痢 b 腸チフス c 急性灰白髄炎 d ジフテリア e 風疹

【問 27】 予防手段としては予防接種がもっとも有効であるとされている疾病はどれか。

- a コレラ b 腸チフス c 急性灰白髄炎 d インフルエンザ e 結核

【問 28】 尿尿の消毒に不適当な消毒薬はどれか。

- a 石炭酸 b クレゾール c 昇汞 d 煅性石灰 e 石灰乳

【問 29】 水系伝染病について正しいのはどれか。

- (1) 曝露日の推定が常に可能である。
 - (2) 季節に影響されずに発生する。
 - (3) 一般に潜伏期は短く、致命率は低い。
 - (4) 患者の生活様式、職業に関係がある。
- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 30】 感染症の疫学的記載について正しいのはどれか。

- (1) ブタの血清中の抗体をみることによって、日本脳炎の流行予測ができる。
 - (2) 妊娠末期に風疹に罹患すると先天性奇形の出生率が高くなる。
 - (3) 麻疹に罹患したことのない人が約5%いるが、乳児期に感染したので不全型で終わったものと考えられている。
 - (4) ジフテリアの保菌者は非常に多いので、罹患者の大部分は保菌者から感染したものである。
- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 31】 消毒について正しいのはどれか。

- (1) 「ふきん」は煮沸がよい。
 - (2) 喀痰には昇汞を用いるとよい。
 - (3) 部屋はホルムアルデヒドガスが適している。
 - (4) 牛乳には超高温瞬間殺菌法が適している。
- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 32】 次のうち正しいのはどれか。

- (1) 最近10年間、わが国の急性灰白髄炎(ポリオ)の年間患者数は100人に満たない。
 - (2) 生後6か月頃までの乳児は伝染病にかかりにくい。
 - (3) 現在わが国の赤痢はフレキシナー菌(*Sh. flexneri*)によるものが半数を占める。
 - (4) コレラはわが国では昭和22年以降51年まで国外から1, 2例輸入された以外は発生しなかった。
- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

4 感染症—問題

【問 33】 現在、わが国でその予防上、健康病原体保有者 (carrier) が重視される感染症はどれか。

- (1) 腸チフス (2) 日本脳炎 (3) 麻疹 (はしか)
(4) 破傷風 (5) B型ウイルス肝炎
a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

【問 34】 次のうち正しいのはどれか。

- (1) 近年、赤痢菌には抗生剤耐性株の減少がみられる。
(2) インフルエンザの大流行の場合は、ウイルスの抗原変異に注意すべきである。
(3) 現在わが国の天然痘の防疫では、患者の潜伏期中の対策は重要とされていない。
(4) 猩紅熱の流行防止は、理論的には患者の完全隔離によって達成できる。
a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 35】 寄生虫と中間宿主の組み合わせについて誤っているのはどれか。

- (1) 肺吸虫——フナ (2) 肝吸虫——サワガニ
(3) 有鉤条虫——ウシ (4) 無鉤条虫——ブタ
a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 36】 次のうち正しいのはどれか。

- (1) マラリア患者数は世界的にみて一時は激減したが、最近再び増加してきている。
(2) 現在ベスト患者数は僅少であるが、世界にはヒト以外の地方病的ベスト流行地がなお残っている。
(3) エルトールコレラは、最近世界的大流行の形をとり、アジア、アフリカおよびヨーロッパで患者が多い。
(4) 痘瘡患者は1977年10月ソマリアでの発生を最後として患者の発生はなくなった。
a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 37】 次の感染症とワクチンについて正しい組み合わせはどれか。

- (1) 結核——弱毒生菌ワクチン (2) 破傷風——死菌ワクチン
(3) インフルエンザ——不活化ワクチン (4) 日本脳炎——不活化ワクチン
a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 38】 溶連菌で起こる疾患はどれか。

- (1) 猩紅熱 (2) 泉熱 (3) リウマチ熱 (4) 丹毒
a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 39】 次の疾患のうち人畜共通感染症はどれか。

- (1) 炭疽 (2) 日本脳炎 (3) ワイル病 (4) トキソプラズマ症
a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 40】 次の寄生虫のうち経皮感染するのはどれか。

- (1) 有棘顎口虫 (2) 日本住血吸虫 (3) 鉤虫 (4) 広節裂頭条虫
a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 41】 ネズミが病原体保有動物であって、人に対する感染源となり得るのはどれか。

- (1) ヒストプラズマ症 (2) サルモネラ症 (3) レプトスピラ症
(4) トリコモナス症 (5) ブルセラ症
a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

【問 42】 次のうち正しいのはどれか。

- (1) 集団予防接種実施の前に、被接種者が予防接種の該当者であるか否かを書類の提示または適当な方法で確認しなければならない。
(2) 予防接種実施の前に、被接種者について問診および視診を行わなければならない。
(3) 予防接種用注射針は被接種者ごとに取り替えなければならない。

- (4) 種痘および麻疹・風疹生ワクチンの接種をうけた後1か月を経過しないものには、急性灰白髄炎（ポリオ）の予防接種をしてはならない。

a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問43】 次の感染症のうち、病原体がウイルスで、わが国では不活化ワクチンのみを使用されているのはどれか。

a 急性灰白髄炎 b 百日咳 c インフルエンザ
d 麻疹 e ジフテリア

【問44】 次のうち正しいのはどれか。

- (1) 急性伝染病が水系流行すると、爆発的な患者発生がみられる。
(2) 伝染性肝炎の流行時には、不顕性感染も多い。
(3) 世帯内2次感染率とは、世帯内の2次患者数を、感染源となった患者をふくめた全世帯人員で除した割合である。
(4) 患者の集団発生があり、単一曝露の場合には、患者の発生頻度は原則として2峰性の分布を示す。

a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問45】 次の伝染病のうち感染発症指数のもっとも大きいのはどれか。

a 猩紅熱 b ジフテリア c 日本脳炎 d 麻疹 e 百日咳

【問46】 次の伝染病のうち、感染発症指数のもっとも小さいのはどれか。

a 痘瘡 b ジフテリア c 急性灰白髄炎 d 麻疹 e 百日咳

【問47】 次のうち家族集積性のもっとも高い伝染病はどれか。

a 猩紅熱 b ジフテリア c 日本脳炎 d 急性灰白髄炎 e 麻疹

【問48】 次の伝染病のうち食品または飲料水によって伝染するのはどれか。

a 流行性脳脊髄膜炎 b ベスト c 百日咳
d 流行性（伝染病）肝炎 e 発疹熱

【問49】 次のうちカ（蚊）によって媒介されるのはどれか。

a 発疹チフス b 日本脳炎 c 流行性（伝染病）肝炎
d 発疹熱 e ワイル病

【問50】 次のうちカ（蚊）によって媒介されないのはどれか。

a 発疹チフス b 日本脳炎 c マラリア
d 黄熱 e フィラリア病

【問51】 サルモネラ食中毒の予防にもっとも有効な方法はどれか。

a 予防接種 b ハエの駆除 c カ（蚊）の駆除
d ネズミの駆除 e 防腐剤の使用

【問52】 予防接種がもっとも有効な予防手段として用いられる伝染病はどれか。

a コレラ b 腸チフス c 急性灰白髄炎
d インフルエンザ e 結核

【問53】 昭和42年まで毎年1,000人以上の患者が発生していた日本脳炎が最近激減した。この原因としてもっとも重要なのは次のうちどれか。

a カ（蚊）の減少 b 日本脳炎の流行には数年を周期とする長期変動がある
c 予防接種の普及 d 患者隔離の励行 e 治療の進歩

【問54】 溶連菌感染症が集団発生した場合の処置として有効なのは次のうちどれか。

- (1) 患者および接触者の隔離 (2) うがいの励行
(3) ガンマグロブリンによる受働免疫の負与 (4) 抗生物質の予防内服
a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問55】 急性灰白髄炎が発生した場合の防疫対策として有効なのはどれか。

- (1) 接触者に対する予防接種 (2) 家族に対する予防接種 (3) 患者の隔離
(4) 検病調査による初期患者の発見
a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ

6 感染症一問題

d (4)のみ

e (1)~(4)のすべて

【問 56】 BCG 接種が行われていない国で、同じ年齢層について地域別にツベルクリン反応陽性率と結核死亡率との関係を調べたところ、ツベルクリン反応陽性率の高い地域ほど結核死亡率も高いという相関関係がみられた。この調査結果からえられる結論は次のどれか。

- (1) 結核感染者が多い地域は結核に免疫のある個体が多く結核死亡率も低いはずであるから調査をやりなおす。
- (2) 結核感染者の多い地域ほど患者が多発して死亡率も高いかどうかをみるには BCG 接種が普及している国で同じ調査を行う方がよい。
- (3) ツベルクリン反応陽性率と結核死亡率との相関関係だけでは何も結論はえられない。
- (4) 結核感染源の多い地域ほど患者が多発し死亡率も高いから開放性結核患者の発見と隔離が必要である。

a (1), (3), (4)のみ

b (1), (2)のみ

c (2), (3)のみ

d (4)のみ

e (1)~(4)のすべて

【問 57】 消毒薬の効果について誤っているのはどれか。

- a 次亜塩素酸ナトリウム液は HB ウイルスに対して有効である。
- b 逆性石けんは芽胞に対して有効である。
- c ホルムアルデヒドはほとんどすべての微生物に対して有効である。
- d エタノールは栄養型の細菌に対して有効である。
- e クレゾール石けん液は結核菌に対して有効である。

【問 58】 次の寄生虫のうち、その寄生を証明するのに糞便中の虫卵検査が有効なのはどれか。

- (1) 広節裂頭条虫
 - (2) 肝吸虫
 - (3) 日本住血吸虫
 - (4) 有棘顎口虫
 - (5) アニサキス
- a (1), (2), (3) b (1), (2), (5) c (1), (4), (5)
d (2), (3), (4) e (3), (4), (5)

【問 59】 次の組合わせのうち関連があるのはどれか。

- (1) 日本脳炎———ブタ
- (2) 有鉤条虫症———ウシ
- (3) 蟯虫症———イヌ
- (4) レプトスピラ症———ネズミ
- (5) フィラリア症———カ

a (1), (2), (3)

b (1), (2), (5)

c (1), (4), (5)

d (2), (3), (4)

e (3), (4), (5)

【問 60】 次の寄生虫のうち家族内感染が顕著にみられるのはどれか。

- a 回虫
- b 鉤虫
- c 鞭虫
- d 蟯虫
- e 東洋毛様線虫

【問 61】 次の疾病のうち、感受性のある人が患者と接触しても感染の危険が少ないのはどれか。

- (1) 猩紅熱
- (2) 破傷風
- (3) 日本脳炎
- (4) 麻疹
- (5) インフルエンザ

a (1), (2)

b (1), (5)

c (2), (3)

d (3), (4)

e (4), (5)

【問 62】 次の組合わせのうち適切なものはどれか。

- (1) 感染症のサーベイランス———接触者の行動制限の強化
- (2) 腸チフス———潜伏期に菌を排出する者が多い
- (3) ボツリヌス菌———土壌由来の病原菌
- (4) ラッサ熱———伝染病予防法における指定伝染病
- (5) 風疹の流行予測———集団免疫の状態

a (1), (2), (3)

b (1), (2), (5)

c (1), (4), (5)

d (2), (3), (4)

e (3), (4), (5)

【問 63】 次の疾病のうち、し尿の消毒を必要とするのはどれか。

- (1) 急性灰白髄炎
- (2) 細菌性赤痢
- (3) ジフテリア
- (4) ぶどう球菌による食中毒
- (5) 猩紅熱

a (1), (2)

b (1), (5)

c (2), (3)

d (3), (4)

e (4), (5)

【問 64】 我が国の結核の罹患、死亡、予防対策の現状について正しいのはどれか。

- (1) 結核死亡率は米国、オランダより低い。
 - (2) 結核罹患率は40歳代が最高である。
 - (3) 年間の結核罹患者は法定伝染病の年間罹患者総数より多い。
 - (4) 結核予防法による BCG 接種はツ反陰性者のみに行う。
 - (5) 小・中学生の定期健康診断では全学年にエックス線間接撮影を行う。
- a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

【問 65】 次のうち家族集積性の高い疾患はどれか。

- (1) 日本脳炎 (2) 食中毒
 - (3) インフルエンザ (4) 破傷風
- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 66】 蚊が媒介する疾病はどれか。

- (1) 発疹熱 (2) 回帰熱 (3) 腺ペスト
 - (4) 黄熱 (5) Bancroft 糸状虫症
- a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

【問 67】 正しいのはどれか。

- (1) ジフテリアには器物による媒介物感染のことがある。
 - (2) エルトールコレラでは汎流行 (pandemic) を見る。
 - (3) 麻疹流行の次の流行までの間隔は一般に都市部では農村部より長い。
 - (4) 風疹は人畜共通感染症である。
- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 68】 結核について誤っているのはどれか。

- (1) 昭和54年の統計では、結核の有病率が最も低い年齢層は10~14歳である。
 - (2) 感染性肺結核として登録されている患者のうち、患者数の最も多い年齢層は40歳代である。
 - (3) ツベルクリン皮内注射は、毎回、前腕屈側のほぼ同じ部位に行う。
 - (4) 強い結核初感染を受けた者には INH 投与を行う。
- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 69】 塵埃感染により伝播するのはどれか。

- (1) Q熱 (2) オウム病 (3) 肺結核
 - (4) A型肝炎 (5) 疥癬
- a (1), (2), (3) b (1), (2), (5) c (1), (4), (5)
d (2), (3), (4) e (3), (4), (5)

【問 70】 Weil 病ワクチンの接種を奨めるべき職業はどれか。

- (1) 水田における作業に従事する者
 - (2) 下水溝における作業に従事する者
 - (3) 浄水場における作業に従事する者
 - (4) 献血者からの採血作業に従事する者
 - (5) 牧場における作業に従事する者
- a (1), (2), (3) b (1), (2), (5) c (1), (4), (5)
d (2), (3), (4) e (3), (4), (5)

【問 71】 糞便から感染するのはどれか。

- (1) ポリオウイルス (2) 横川吸虫
 - (3) Cryptococcus neoformans (4) A型肝炎ウイルス
- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 72】 届出が義務づけられていないのはどれか。

- a 食中毒 b 急性灰白髄炎(ポリオ) c 麻疹
- d 風疹 e 狂犬病

8 感染症—問題

【問 73】 ウイルス肝炎について正しいのはどれか。

- (1) A型とB型では病原ウイルスの核酸構造が全く異なる。
 - (2) 我が国の最近における輸血後肝炎中もっとも多いのはB型である。
 - (3) A型では院内感染を起こす危険はほとんどない。
 - (4) HB ウイルス・キャリアーは感染源としてだけでなく、慢性肝炎の前駆症的役割も果している。
- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 74】 予防接種法で定期予防接種の対象疾患とされているのはどれか。

- (1) 風 疹 (2) 日本脳炎 (3) インフルエンザ
 - (4) 結 核 (5) 麻 疹
- a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

【問 75】 感染症につき適切なのはどれか。

- (1) 集団免疫度が高い場合は、罹患率も高い。
 - (2) 致死率は、個体に対する病原体の侵襲の強さによっても影響される。
 - (3) 致死率は疾病の種類によりほぼ一定している。
 - (4) 致死率の高い疾患は、治癒後も重篤な後遺症を残す。
 - (5) 食物流行の致死率は水系流行のそれより低い。
- a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

【問 76】 母体から胎児に感染を起こすことが知られているのはどれか。

- (1) 風疹ウイルス (2) サイトメガロウイルス
 - (3) トキソプラズマ (4) B型肝炎ウイルス
- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 77】 予防接種が禁忌であるのはどれか。

- (1) 発熱している者
 - (2) 腎臓疾患または肝臓疾患にかかっている者で、当該疾患が活動期にあるもの。
 - (3) 接種前1年以内に痙攣の症状を呈したことがあることが明らかな者
 - (4) 妊娠していることが明らかな者
- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問 78】 芽胞にもウイルスにも有効な消毒薬はどれか。

- (1) アルコール (2) エチレンオキシドガス
 - (3) ホルマリン (4) 石炭酸
 - (5) 逆性石けん
- a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

母子保健

【問1】 母子保健法により衛生行政レベルで行われる乳児健康診査で参考として用いられる Kaup 指数は次のうちどれが正常範囲と判断されるか。

- a 10未満 b 10~14 c 15~19 d 20~24 e 25以上

【問2】 わが国で周産期死亡率は、次のどれによって計算されているか。

- a $\frac{\text{後期(妊娠満28週以後)死産数} + \text{早期(生後1週未満)新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 1,000$
- b $\frac{\text{後期(妊娠満28週以後)死産数} + \text{早期(生後1週未満)新生児死亡数}}{\text{出産数}} \times 1,000$
- c $\frac{\text{後期(妊娠満20週以後)死産数} + \text{早期(生後28日未満)新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 1,000$
- d $\frac{\text{後期(妊娠満20週以後)死産数} + \text{早期(生後28日未満)新生児死亡数}}{\text{出産数}} \times 1,000$
- e $\frac{\text{後期(妊娠満28週以後)死産数} + \text{早期(生後28日未満)新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 1,000$

【問3】 わが国の最近における周産期死亡率はどれくらいか。

- a 10~19 b 20~29 c 30~39 d 40~49 e 50~59

母子保

【問4】 わが国の最近の乳児死亡率は出生1,000に対しどれくらいか。

- a 52 b 32 c 16 d 8 e 2

【問5】 3歳児健康診査を規定している法律は次のうちどれか。

- a 結核予防法 b 母子福祉法 c 児童福祉法
d 保健所法 e 母子保健法

【問6】 最近わが国における出産1万対の妊産婦死亡率は次のうちどれか。

- a 100以上 b 約100 c 約50 d 約10 e 10以下

【問7】 次のうち誤っているものはどれか。

- a 周産期死亡は、妊婦28週以後の後期死産と生後1週未満の早期新生児死亡をあわせたものである。
- b 周産期死亡率は、わが国では減少の傾向がみられない。
- c わが国では後期死産より早期新生児死亡の方が常に少ない。
- d わが国では妊娠12週以後の人工死産は、妊娠月数が進むにつれて減少する傾向がある。
- e わが国の乳児死亡率（出生千対）は現在20以下である。

【問8】 次のうち正しいものはどれか。

- (1) 戦後乳児死亡率は著明に減少し最近では20以下になった。
- (2) 都市の乳児死亡率が低いのは若年者が多いためである。
- (3) 乳児死亡は月齢が進むにつれて少なくなる。
- (4) 乳児死亡の原因のうち最近第1位を占めているのは先天異常である。
- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問9】 現在のわが国の妊産婦死亡率を国際的に比較したとき正しいものは次のうちどれか。

- (1) アメリカ、英国、フランスとほとんど同率になった。
- (2) 妊娠中毒症によるものが高率である。
- (3) 出血によるものが高率である。 (4) 産褥熱によるものが高率である。
- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて

【問10】 低（出生）体重児について正しいのはどれか。

- (1) 2700g未満の出生児をいう。 (2) 出生割合は逐年増加の傾向にある。
- (3) 出生割合は男に多い。 (4) 原因としては母体の妊娠中毒症がもっとも多い。
- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ c (2), (3)のみ
d (4)のみ e (1)~(4)のすべて